

# 徹底解剖!

## ゆうちょ銀行の実力

# 優位性のある分野を強化し 補完できる分野では連携を

最終回 ゆうちょ銀行の利用者像と地域銀行に必要な戦略

日本総合研究所  
首席主任研究員

藤田 哲雄



**最**終回は、ゆうちょ銀行の利用者像・利用実態を把握するとともに、今後、地域銀行がどのようにゆうちょ銀行と競争もしくは連携すべきかについて考察してみたい。

### 口座保有率は高いが メイン利用率は半分以上

#### (1) ゆうちょ銀行の利用者像

ゆうちょ銀行の利用者は、一般の銀行利用者比べてどのような特徴があるだろうか。これをデータで確認することは容易ではないが、全国銀行協会が2012年8月に実施した「よりよい銀行づくりのためのアンケート」(2012年12月発表)が参考になる。

同調査は全国から一般生活者3400名と企業経営者300名に対してインターネット経由で、銀行の利用状況について調査したものである。数年に一度の調査であるためデータが少し古いことや、インターネット経由調査のバイアスを含む可能性があるという難点はあるものの、全国をカバーしていることや、詳細なクロス分析が

なされていることなどから、有用性が高い。

以下では、同調査結果を用いて、ゆうちょ銀行の利用者像を把握してみたい。

まず、金融機関別に口座を保有する人の割合を見ると、銀行(合計)が男女ともに30歳代以降では90%以上の保有率となるのに対して、ゆうちょ銀行では女性の口座保有率が男性より高い、年齢の上昇とともに保有率が上昇していくが銀行を上回ることはない、という特徴がある。このような男女差はインターネット銀行ではさらに大きく表れていることが興味深い(図表1)。

しかしながら、メインで利用している銀行をみると、一般の銀行とゆうちょ銀行はまったく異なる状況となっている。一般の銀行のメイン利用者は男女とも30歳代もしくは40歳代がピークとなり、年代が高くなるにつれて利用率が低下しているのに対し、ゆうちょ銀行では18歳から29歳までは男女とも3割弱がメイン利用者だが、30歳代もしくは40歳代でメイン利用

かと推測される。

### 給与振込や資産運用を 目的とした利用は少ない

#### (2) ゆうちょ銀行はどのように利用されているのか

では、ゆうちょ銀行がサブ金融機関として支持されるのはなぜか。個人預貯金口座を持つ金融機関の印象評価の結果を見ると、ゆうちょ銀行では「ATMが多く身近な場所にある」「店舗が多く身近な場所にある」の項目が他の金融機関業態よりも強く表れている。ゆうちょ銀行が最も際立っているのは「手数料が有利である」点であり、全国へ手数料無料で払込みが可能なのが支持されているようである。

一方で、ゆうちょ銀行のコンサルティング能力、商品・サービスレベルについては、ほとんど評価されていないほか、大規模ゆえの安心感も都市銀行に比べると印象が弱い。また、地域との密着度については地域銀行のほうがゆうちょ銀行よりもその印象が強い(図表4)。

次に、その金融機関に口座を保有する目的についてみると、一般の銀行とゆうちょ銀行の間に定期預金では大きな差は見られないものの、ゆうちょ銀行は給与受取り口座としての利用、自動引落とし口座としての利用目的の割合が一般の銀行に比べて小さい。ゆうちょ銀行が一般の銀行に比べて保有目的で上回るのは、わずかに保険商品の購入である。これは郵便局でかんぽ生命の定型的な商品を購入しやすいためである。しかし、資産運用については、「金融商品・サービスに関する情報の収集」と「資産運用の相談」の双方において、ゆうちょ銀行では一般銀行に比べて利用する人の割合が低い(図表5)。

ちなみに、金融商品のリスクや手数料などの仕組みの認知度を比較してみると、ゆうちょ銀行利用者(主取引金融機関としている人)は、一般の銀行利用者に比べて、認知度がやや低い(図表6)。これには、ゆうちょ銀行で販売している商品やサービスの種類が少ないことも関係している可

者比率が低下し、50歳代以降年代が高くなるにつれて再びメイン利用者率が上昇している(図表2)。これは、企業へ就職すると、給与振込が企業の取引銀行の口座となり、それをメイン口座として利用することが多いためと考えられる。

以上から、ゆうちょ銀行は口座保有率がどの年代でも6割以上と高いものの、メイン利用率はその半分以上に留まっていることが分かる。実際、メインとする金融機関の業態ごとに、他の業態の口座

保有率を確認してみると、都市銀行、地方銀行、第二地銀、インターネット銀行それぞれをメイン口座として利用している人の約7割がゆうちょ銀行の口座を保有している(図表3)。

これは、例えば地方銀行のメイン利用者で都市銀行や第二地銀に口座を保有する割合が3割から1割程度に留まっているのとは大きく異なる。これらの状況から、ゆうちょ銀行口座保有者の多くは、メイン口座ではなく、サブ金融機関として利用しているのではない